

2021年3月期 第1四半期決算説明資料

2020年8月12日

FOR QUALITY CONFIDENCE



1. 成長ターゲット	P.3
2. ソフトウェアテスト市場の可能性	P.5
3. 当社の強みと今後の成長戦略	P.10
4. 2021年3月期 第1四半期 決算概況	P.17
5. 2021年3月期 決算見通し	P.21

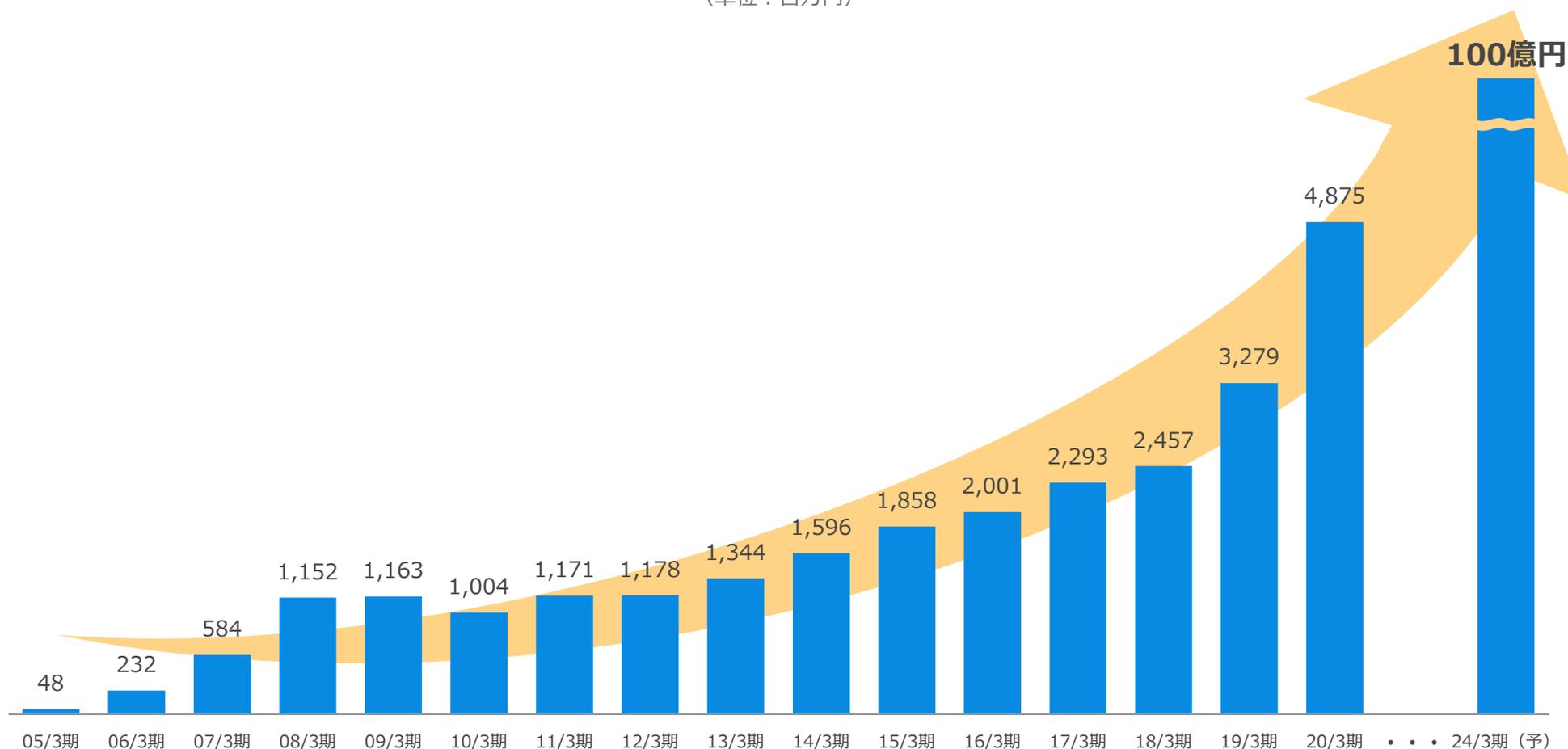
成長ターゲット



ソフトウェアテスト市場の成長から、2024/3期に売上高**100億円**を目指す

売上高の推移

(単位：百万円)

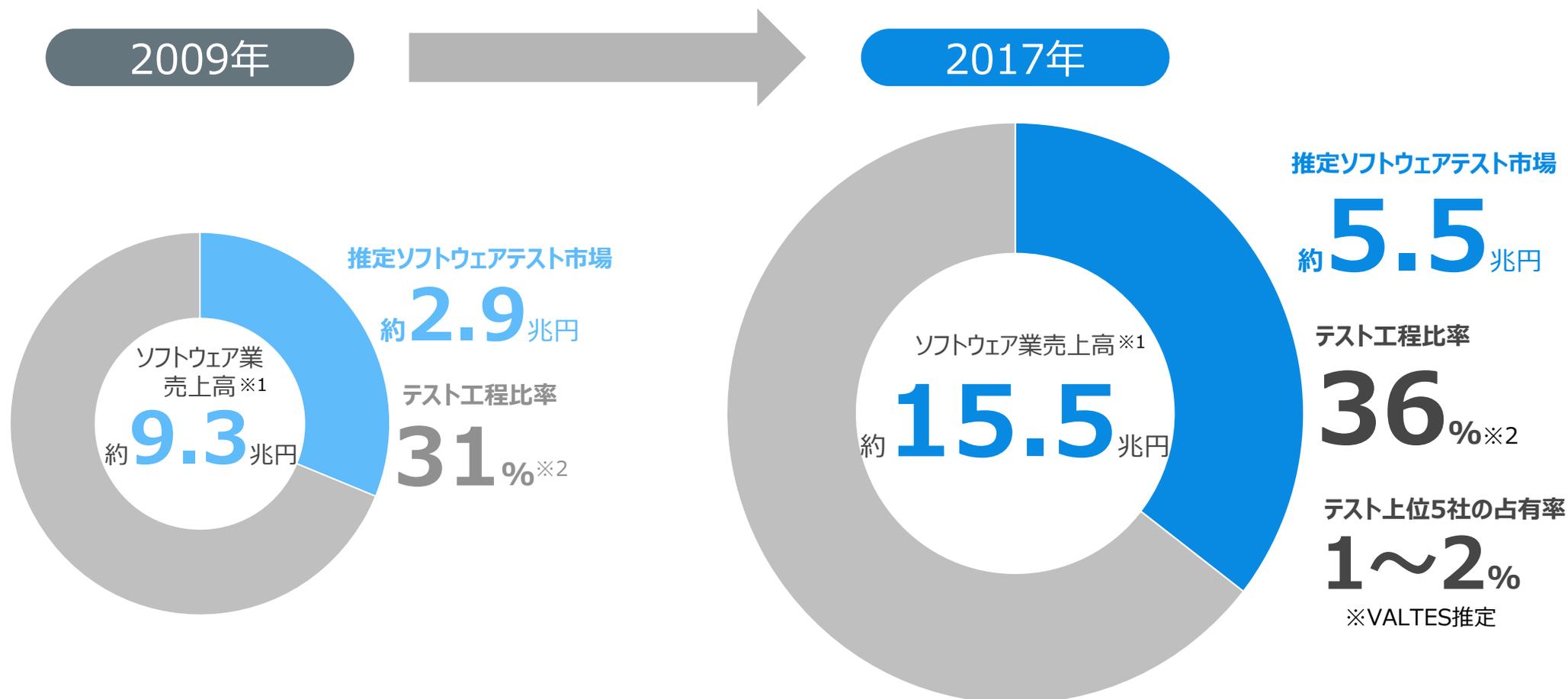


ソフトウェアテスト市場の可能性



当社が推定する日本のソフトウェアテストの市場規模は約5.5兆円

ソフトウェア業売上高に占めるテスト工程比率の推移と市場規模推計



※1 総務省・経済産業省「情報通信業基本調査」より ※2 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発データ白書」より

ソフトウェアテストはソフトウェア開発企業から**テスト専門企業**へ

ソフトウェア開発企業の悩み

- コストが高い開発担当者の労働時間の約4割がテスト・検証に割かれる
- テスト・検証は開発者のモチベーションが上がらない為、非効率
- 開発者自身がテスト・検証を行うのは客観性が無く信頼性に欠ける

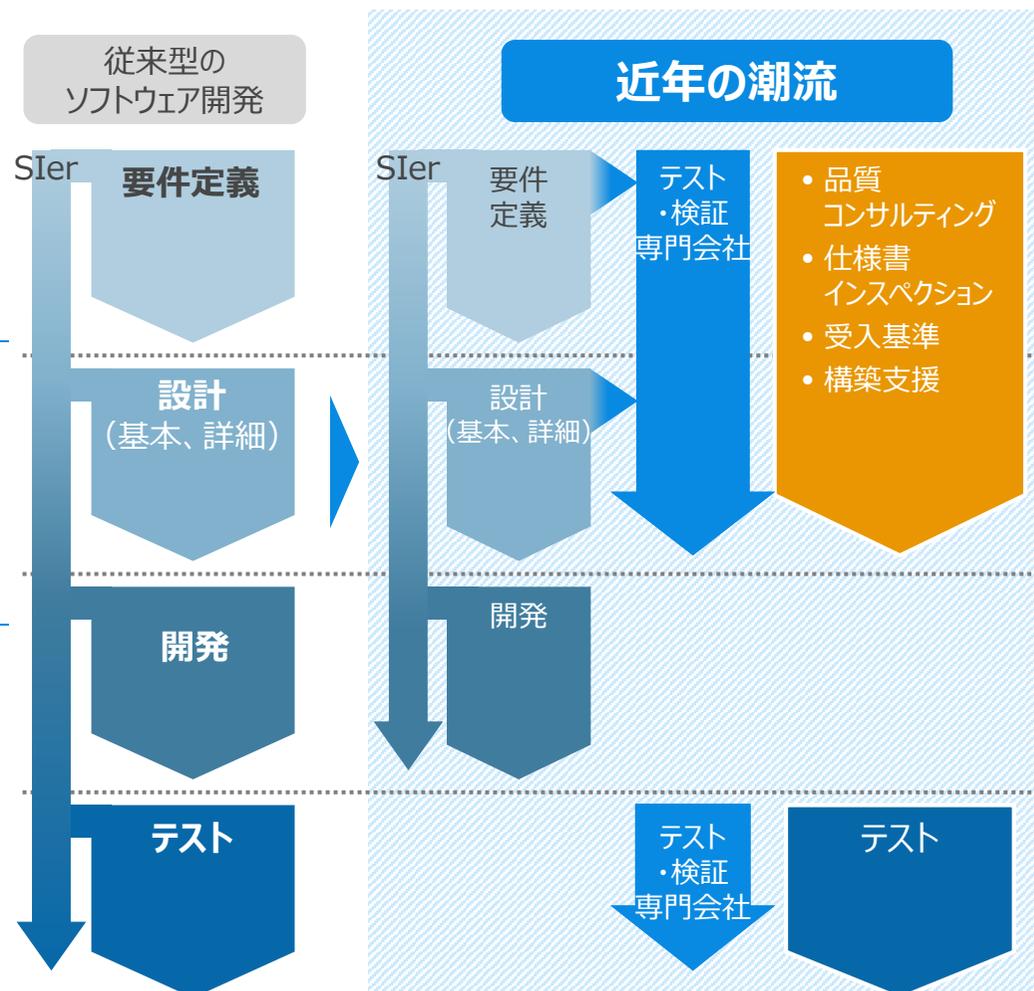
テスト工程がアウトソースされなかった理由

- 日本では大手SIerが案件を一括受注し、傘下の下請け・孫請けに発注している状況で、開発エンジニアがテスト工程まで行う構造であった

テスト工程のアウトソース化が加速！

- 第三者のテスト専門会社によるテスト・検証の有効性が注目
- 再現性・共有性の高いテストの方法論が確立（各社独自のメソッド）することで効率的なテストが実現可能に

ソフトウェア開発の業務フローの変遷



重点領域であるエンタープライズ領域が1.4倍に成長

市場環境

基幹システムの老朽化により、デジタルトランスフォーメーション（DX）が進まなければ、経済損失が最大年間12兆円とも

出所：2018年「DXレポート～ITシステム「2025年の崖」克服とDXの本格的な展開～」経済産業省

デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展

- ① 長期使用による基幹システムの老朽化
- ② 大容量高速通信時代の到来

エンタープライズ領域でのニーズ増加

国内エンタープライズIT市場規模

2024年 **12兆7,665億円** (CAGR3.4%)

IDC Japan「国内エンタープライズIT市場規模の予測」

特徴

- 単価 **高** 案件規模 **大** 契約期間 **長**
 - システム開発、業務知識など、テスト以外の知識が求められる
- 難易度 高**

テスト工程の周辺市場との比較 ■ 当社の事業領域

	潜在市場規模	市場ステージ	参入障壁
テスト工程市場	エンタープライズ系	巨大	黎明期
	組込み系	大	黎明期
	Web・スマホ系	中	成長期
	エンターテインメント系	小	成熟期

当社の優位性

- 経験豊富な **ハイレイヤーの採用**



- エンタープライズ領域に強い人材を供給可能な **外部協力会社との取引拡大**



- 長年蓄積された質、量ともに豊富な **当社のテストノウハウ**



- テストノウハウをプログラム化した実践的な研修を **全員が受講**



- **上流工程**からの品質支援ニーズに対応

エンタープライズ領域の売上高

1.4倍 (前年同期比)

※ソフトウェアテストサービスのみ

「テレワーク」の定着や「巣ごもり需要」の高まりにより、**新たな受注が増加**

テレワークの定着

働き方改革の進展
オフィススペース削減ニーズの高まり
▶ 教育見直しやツール利用の促進

巣ごもり需要の高まり

自粛生活により生活スタイルが変化
▶ EC通販や電子決済利用の加速
▶ 自宅でのデジタルデバイス
利用時間が増加傾向

新たな受注

- 「ソフトウェア品質教育セミナー」のオンライン提供
- 在宅テストサービスの受注増加
- クラウドサービス提供企業からのニーズ増加
- セキュリティ・脆弱性診断サービスのニーズ増加



- EC通販・決済企業などからの受注増加
- デジタルデバイスを活用した一般消費者向けサービス提供企業からの受注増加

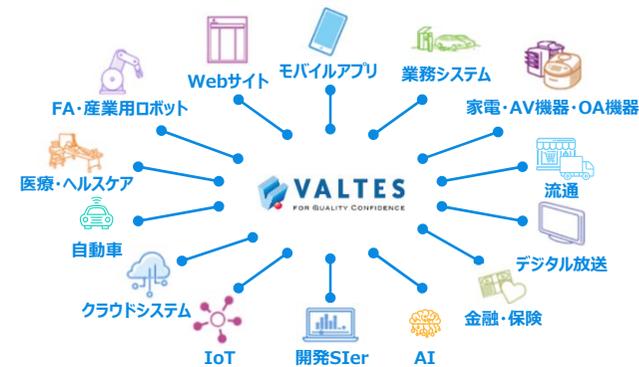


当社の強み



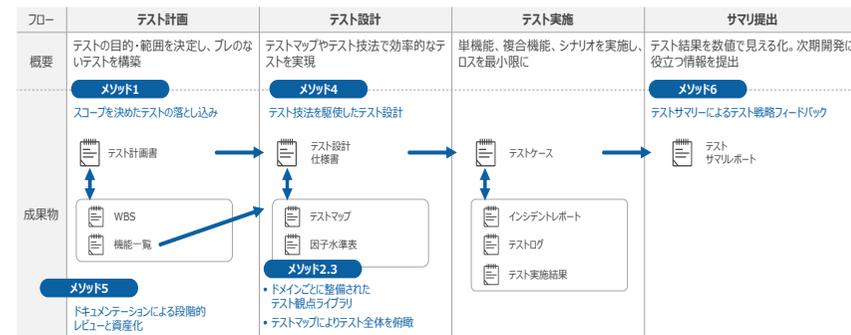
豊富な実績

- ▶ 年間1800プロジェクト、600社以上の導入実績
- ▶ 業種毎の豊富なテスト観点



標準化・プロセス

- ▶ IEEE829準拠テンプレート
- ▶ バルテスメソッド (テストの進行基準)
- ▶ 標準化されたテスト設計手法による
抜け漏れ・誤認識を排除



高スキルエンジニア

- ▶ エンジニア適正試験
- ▶ 独自の研修カリキュラムによる早期戦力化
- ▶ JSTQB※1保有率 92%以上！
(2018年10月時点の入社2年目以降の正社員)
- ▶ ISTQB※2 Global Partner
※全世界8社のみ、**日本初!**



日本で唯一のグローバルパートナー

※1 : JSTQB(Japan Software Testing Qualifications Board)とは、国内のソフトウェアテスト技術者認定組織のこと

※2 : ISTQB(International Software Testing Qualifications Board)とは、世界130か国のテスト技術者認定組織のこと

今後の成長戦略

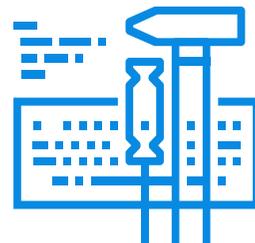


ソフトウェアテスト市場の高い成長

優秀な人材の確保と
研修・戦力化



新規技術の開発への
積極投資



グループシナジー
の強化



モバイルアプリ開発を革新する



バルテス・モバイルテクノロジー株式会社

VALTES MOBILE TECHNOLOGY



VAT

VALTES Advanced Technology, Inc.

教育体制の充実を図り、優秀な人材確保の更なる強化

新卒
未経験者



キャリア



オンライン
教育体制



多様な採用チャネルで、**今期の正社員**エンジニア採用数**60名**！（7月末現在）

充実した社内研修システムによる**早期の安定稼働**
4月からオンライン研修へ移行

320時間

160時間

成長戦略に必要な優秀な人材の確保

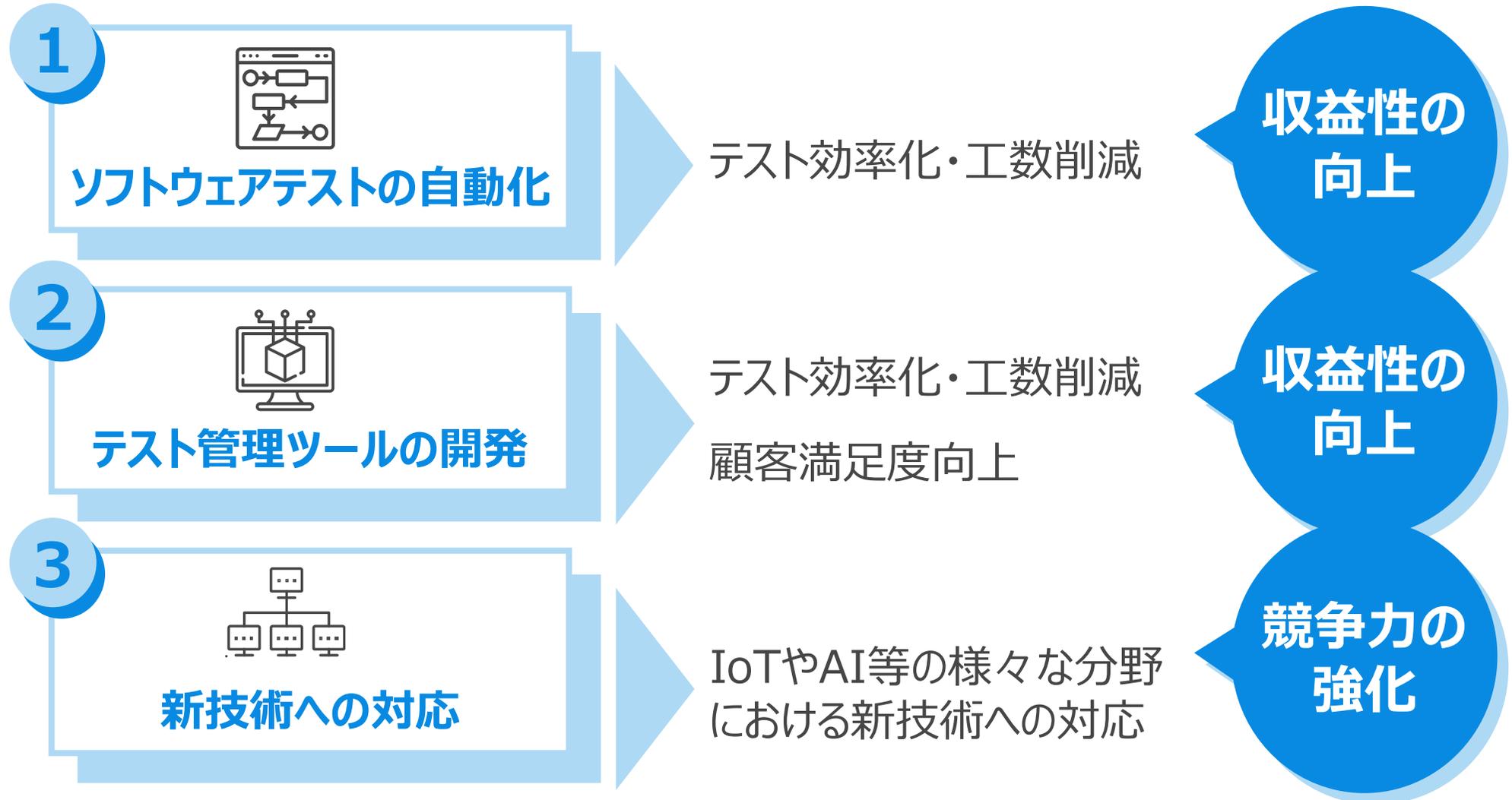
JSTQB保有率 **92%以上***

*入社2年目以降の正社員取得率

日本で唯一のグローバルパートナー



内部留保とのバランスを意識しつつ、新技術の開発に積極的に投資



「Japan Qualityを世界に」発信し、世界のソフトウェアテスト市場を狙う



ソフトウェアテストサービス

Japan Quality を世界に！

培ったバルテスのメソッドをVATに移管。

グループシナジーを強化し、
世界のソフトウェアテスト市場での
シェア拡大も図る

モバイルアプリ開発を革新する



バルテス・モバイルテクノロジー株式会社
VALTES MOBILE TECHNOLOGY

Web/モバイルアプリ開発サービス



VAT
VALTES Advanced Technology, Inc.

オフショアサービス

2021年3月期 第1四半期決算概況



売上高は**12.4%**増収
営業利益は**860.1%**増益

売上高

前年同期比
11.8億円 **+12.4%**

営業利益

前年同期比
0.53億円 **+860.1%**

四半期純利益

前年同期比
0.33億円 **+37**百万円
(前年：△4百万円)

積極採用に加え、エンプラ領域の売上高が
1.4倍に成長し、増収を牽引

エンジニア数
※連結 協力会社含む

630名
(前年同期比 +10名)

エンジニア
正社員
採用数
※連結

41名

エンタープライズ
領域の
売上高
※ソフトウェアテストサービスのみ

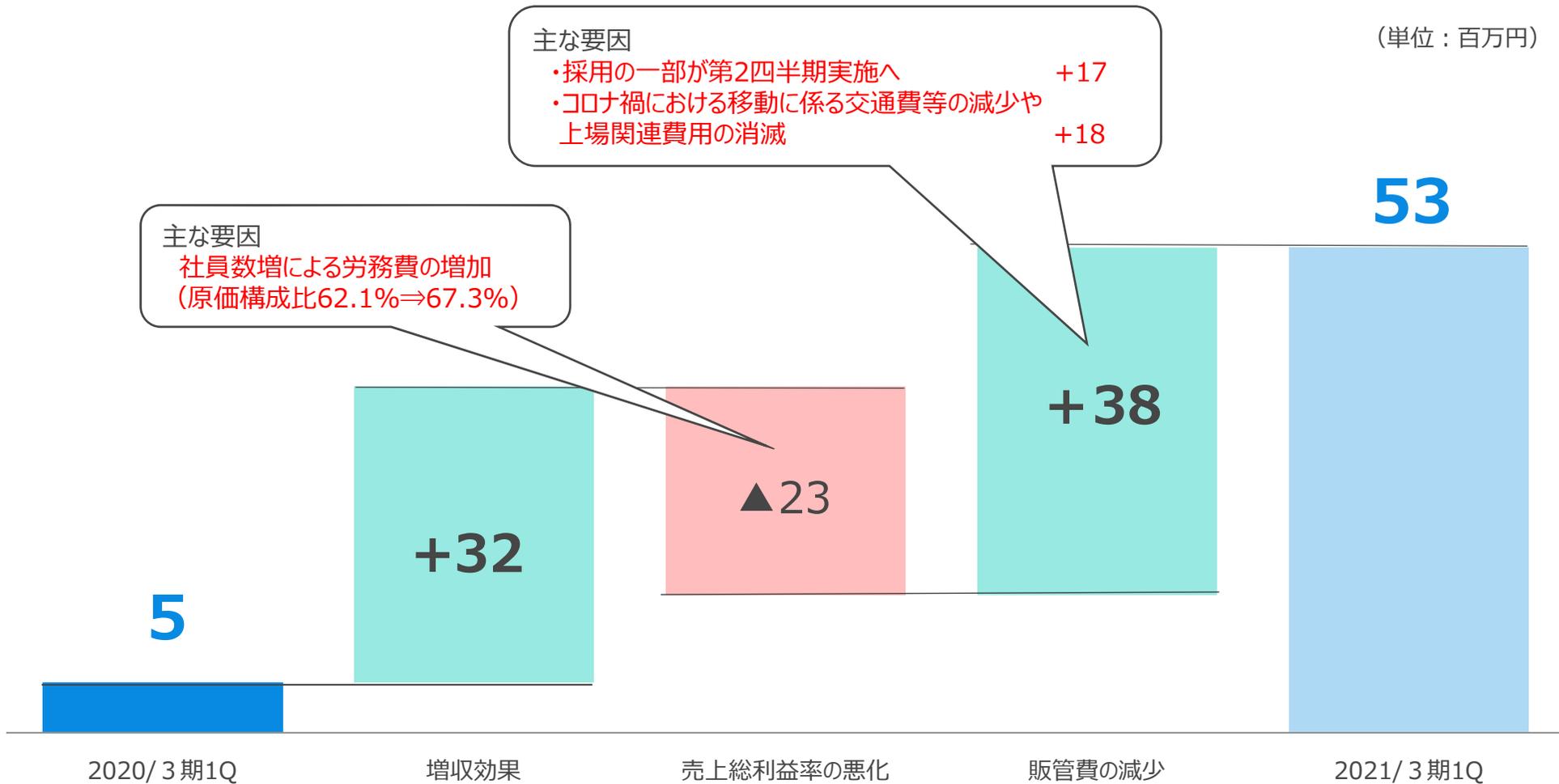
1.4倍
(前年同期比)

売上高は**12.4%成長**、営業利益は大幅増

(単位：百万円)

	2020/3期1Q	2021/3期1Q	
	前年同期実績	実績	前年同期比
売上高	1,050	1,180	+12.4%
売上総利益	266	276	+3.6%
売上比	25.3%	23.4%	▲1.9pt
販管費	260	222	▲14.8%
営業利益	5	53	860.1%
売上比	0.5%	4.6%	+4.1pt
経常利益	3	54	+1345.6%
売上比	0.4%	4.6%	+4.2pt
当期純利益	▲4	33	-
売上比	▲0.4%	2.8%	+3.2pt
EPS	▲0.63	4.85	-

増収により労務費・外注費の増加を回収し、販管費が抑えられたことで**増益**に



2021年3月期 決算見通し



上期はコロナの影響を受けるも、第3四半期以降徐々に回復し**増収増益へ**

	売上高	営業利益	当期純利益
第2四半期 (累計)	23.7 億円 前期比 +3.7%	0.43 億円 前期比 ▲52.9%	0.28 億円 前期比 ▲54.4%
通 期	56.3 億円 前期比 +15.5%	4.28 億円 前期比 +33.3%	2.87 億円 前期比 +28.3%

※業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報や予測等に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

コロナ禍においても上期の積極的採用が第3四半期以降の戦力となり**増収増益へ**

(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期		2020/3期	2021/3期	
	前2Q累計 実績	当2Q累計 予想	2Q比	通期実績	当期予想	前期比
売上高	2,290	2,376	+3.7%	4,875	5,632	+15.5%
営業利益	92	43	▲52.9%	321	428	+33.3%
売上比	4.1%	1.8%	▲2.3pt	6.6%	7.6%	+1.0pt
経常利益	90	45	▲49.6%	323	432	+33.8%
売上比	3.9%	1.9%	▲2.0pt	6.6%	7.7%	+1.1pt
当期純利益	61	28	▲54.4%	224	287	+28.3%
売上比	2.7%	1.2%	▲1.5pt	4.6%	5.1%	+0.5pt
EPS (円)	9.33	4.05	▲56.6%	33.25	41.58	+25.1%

※業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報や予測等に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

1Qまでの業績への影響

- 前期からの受注もあり1Qは堅調に推移
- 緊急事態宣言発令の影響により、4月、5月の商談数が減少（前年同月比▲31.5%）
一方、同期間中に営業体制の整備を図り、6月以降は回復（前年同月比+23.0%）
- 例年参加していたIT展示会が中止になったことにより、新規受注が減少
- 顧客企業のテレワーク体制移行により、受発注・開発が遅延
- 在宅ワークが社内で進み、移動に係る交通費等が減少。採用費の一部が2Qに移り費用減少

2Q以降の業績予想について

- 2Qは顧客企業の4月、5月の開発遅延等により、増収率鈍化。採用費の増加等により、減益予想
- 3Q以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が収束に向かい、経済活動が回復に向かう想定。
ソフトウェアテストサービスの6月のWeb問い合わせ数も過去最高件数
- 「テレワーク」の進展により、顧客の教育意識が向上。オンライン形式の品質セミナーの受注が増加
- EC通販・デジタルデバイスを活用するサービス提供企業からの新たなテスト需要が増加
- 4月、5月の顧客企業の開発遅延案件の稼働により、3Q以降の業績回復を見込む

DX、アフターコロナ等のテーマを追い風に、**更なる成長・変革を**

バルテスチャレンジ

エンタープライズ領域の更なる強化

優秀な人材の確保

新規技術開発への積極投資

アフターコロナへの挑戦

今期の取り組み

- テレワーク開発を支援する「在宅テストサービス」の提供開始
(4/10リリース)
- エンタープライズ領域拡大のため、専門部署を立ち上げ「エンタープライズ品質向上サービス」の拡大に着手
(4/22リリース)
- 「ソフトウェア品質教育セミナー」のオンライン提供開始
(4/30リリース)
- 開発プロジェクトによる課題解決策を1ヵ月で分析・提案するサービス「クイックサーベイ」の提供開始
(5/12リリース)
- テスト自動化新サービス「T-DASH」の提供開始
(5/14リリース)
- 当社が運営するソフトウェア品質向上プラットフォーム「Qbook」を全面リニューアル
(5/26リリース)
- 「ソフトウェアテスト規格の教科書」販売開始
(5/29リリース)



案件獲得のための営業体制の強化

営業戦略

インバウンド戦略

- **品質向上プラットフォーム「Qbook」リニューアル** (5/26リリース)

• 月間4.5万名以上のITエンジニアがサイトに訪問
⇒アプローチ先の増加
- **無償ウェビナーの強化**
• 6月、7月の計2回の無償ウェビナーが好評
計250名以上の各社開発キーパーソンが申込・受講
⇒6月以降の商談数増、3Q以降の案件化へ

アウトバウンド戦略

- **インサイドセールス部署の設置**
• インバウンド戦略により集客した見込客を顧客化へ

採用戦略

キャリア採用

- **未経験者採用**
 - 1Q中に今期の採用予定人数を達成
(7月からの研修の後、9月から稼働)
- **通年採用**
 - 採用キャンペーン「111キャンペーン」の実施へ
(入社お祝い金111万円の支給)

新卒採用

- **コロナ禍でも積極的な活動**
 - 過去最高の新卒採用数を達成
 - 「オンライン選考」を積極活用し、承諾率改善を実現
(内定承諾率前期比+67.0%)
※内定承諾率は内定者の内、入社を承諾した比率

DXの進展による潜在需要により、エンタープライズ系のテストニーズは引き続き堅調、テレワークや巣ごもり需要によるサービスの開発等、新たなニーズも増加

エンター
プライズ系



足元は企業のIT投資が抑制されると推測されるものの、DXの進展による基幹システムの入替え需要は引き続き、健在。同分野のテストサービスニーズは今後も堅調に推移すると推測

組込み系



各種メーカーはコロナ禍の影響を多分に受けると推測されるものの、車載やIoT関連のニーズは引き続き高く、今後も拡大は続く推測

Webサイト・
モバイルアプリ



テレワークの進展や自粛生活により、生活スタイルに変化。企業内で利用されるクラウドサービスの開発ニーズや自粛生活による巣ごもり需要関連サービスの開発ニーズが増加し、比例して同分野のテストサービスニーズも堅調に推移すると推測

ご留意事項

本資料には、当社グループの現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
これらの将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに当社が計画・予想したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素により、この計画・予想などとは異なる場合があります。
この資料は その実現を確約したり、保証するものではありません。
なお、この資料への公認会計士、監査法人の関与はございません。

Appendix

第1四半期決算補足



売上原価は社員増加により労務費が増加 売上高販管費率は6ポイント低下

	2020/3期1Q		2021/3期1Q			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	前年同期比増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	1,050	100.0	1,180	100.0	+130	+12.4
売上原価	784	74.7	904	76.6	+120	+15.4
労務費	487	46.4	609	51.6	+121	+25.0
外注費	236	22.5	258	21.9	+21	+9.2
その他	60	5.7	37	3.2	▲23	▲38.3
販管費	260	24.8	222	18.8	▲38	▲14.8
人件費	115	11.0	109	9.3	▲6	▲5.3
採用費	46	4.5	29	2.5	▲16	▲36.1
研究開発費	11	1.1	13	1.2	+2	+18.9
その他	86	8.2	68	5.8	▲17	▲20.6

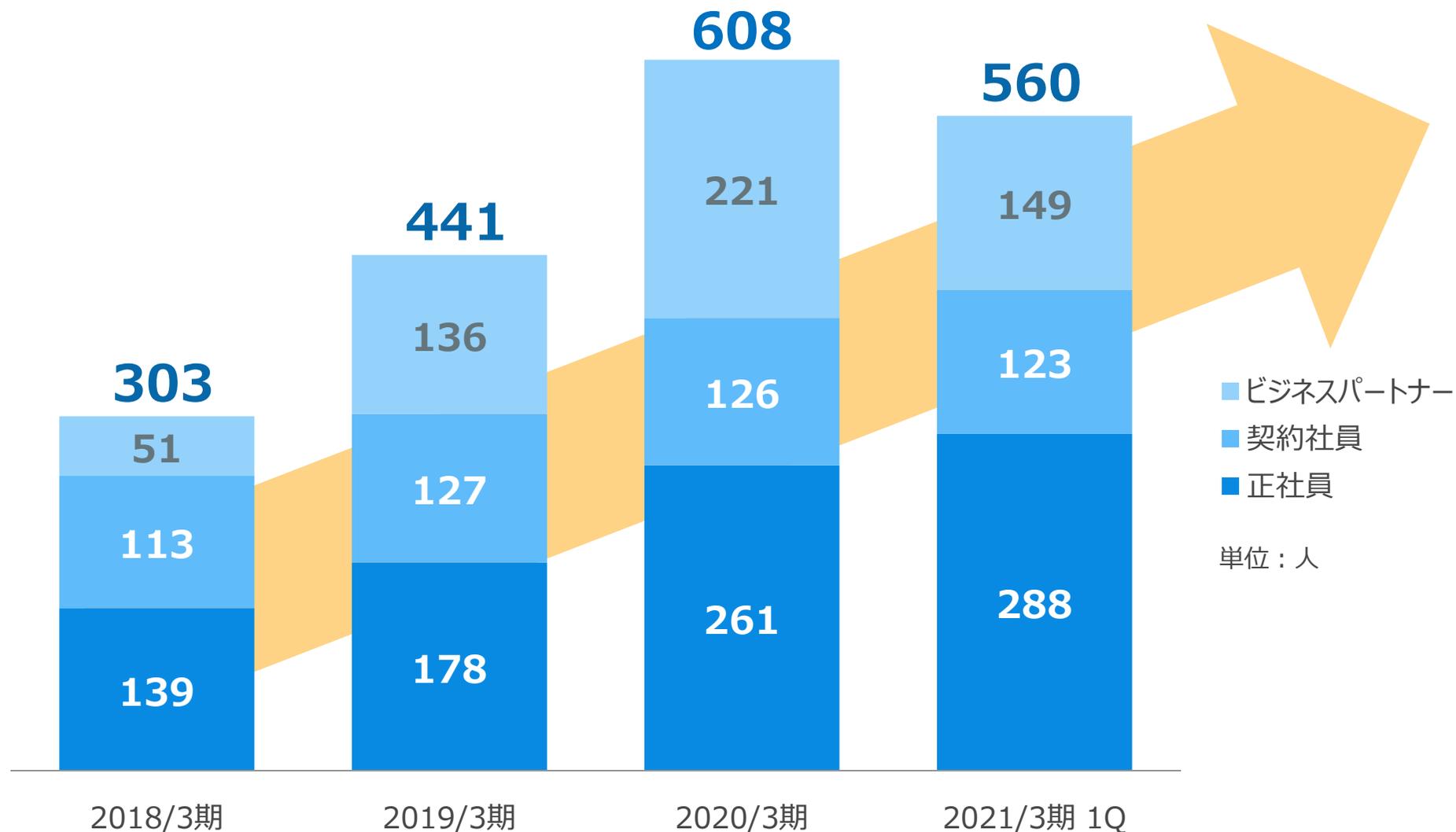
主要2セグメントは増収増益も、オフショアはロックダウンが続き減収

(単位：百万円)

		2020/3期1Q	2021/3期1Q	
		前年同期実績	実績	前年同期比
ソフトウェアテスト サービス事業	売上高	962	1,099	+14.2%
	営業利益	31	71	+124.1%
	利益率	3.3%	6.5%	+3.2pt
	エンジニア数(人)	541人	560人	+19人
	エンジニア1人当たりの売上高(千円)	657千円	652千円	▲0.7%
Web/モバイルアプリ開発 サービス事業	売上高	88	95	+8.0%
	営業利益	▲6	6	-
	利益率	-	6.3%	-
オフショアサービス事業	売上高	10	2	▲77.6%
	営業利益	▲3	▲6	-
	利益率	-	-	-
セグメント間取引消去 及び全社費用	売上高	▲11	▲16	-
	営業利益	▲16	▲17	-
連結	売上高	1,050	1,180	+12.4%
	営業利益	5	53	+860.1%
	利益率	0.5%	4.6%	+4.1pt

※エンジニア1人当たりの売上高は、ソフトウェアテストセグメントの売上高を稼働エンジニア数で除して算出した月間売上高。

2020年3月末から正社員が**27名**増、下期以降の案件増加に伴い、社員、ビジネスパートナーともに増加へ



※期末時点の在籍エンジニア数。

手元資金は安定しており、手元流動性比率^(※1)は**2.6ヶ月超**

(単位：百万円)

	2020/3 期末	2021/3 1Q末	前期末差
資産の部			
現金及び預金	996	1,027	+30
仕掛品	6	22	+16
受取手形及び売掛金	690	547	▲143
流動資産合計	1,746	1,662	▲83
有形固定資産	119	118	▲0
無形固定資産	28	71	+43
投資その他の資産	196	176	▲20
固定資産合計	343	366	+22
資産合計	2,089	2,028	▲61

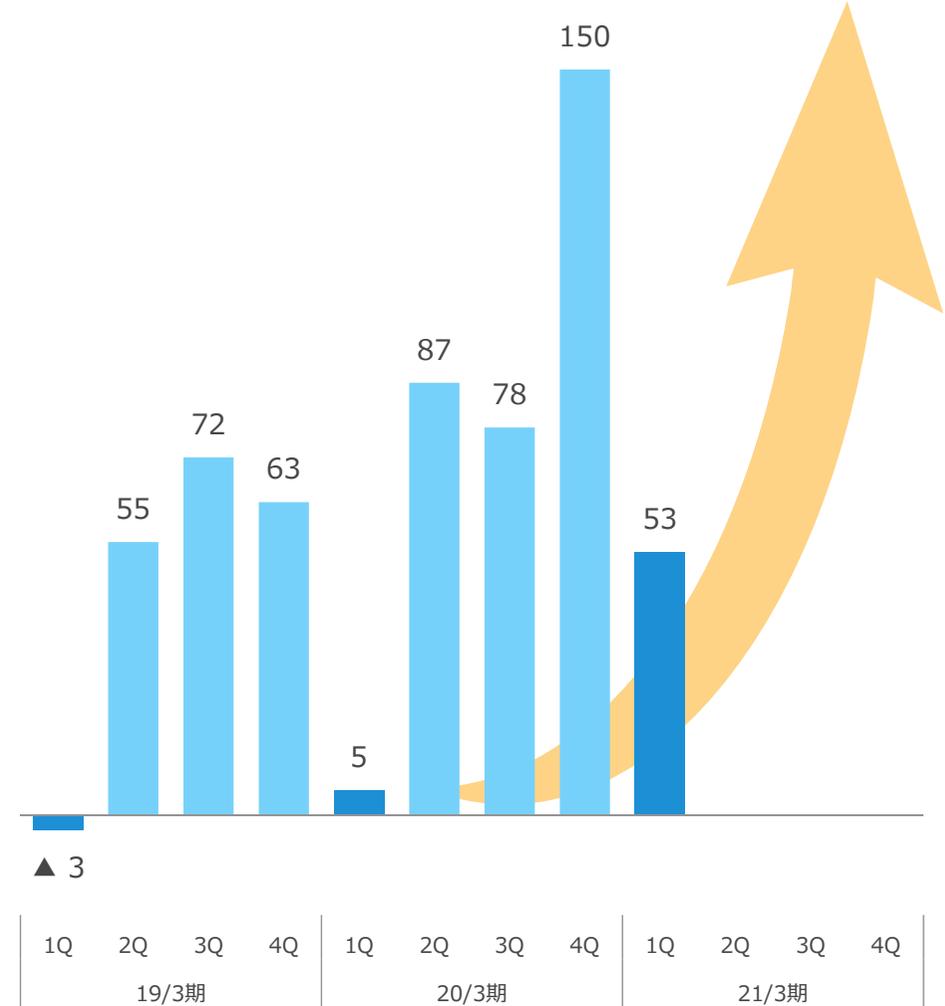
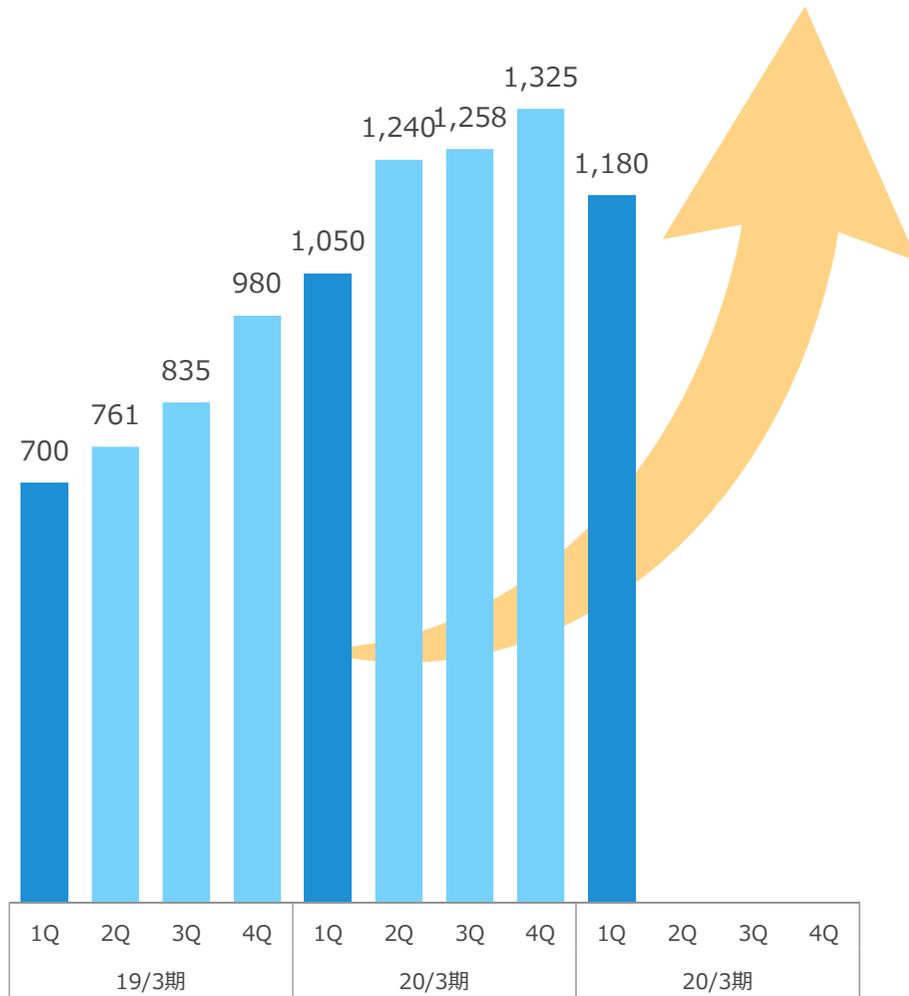
	2020/3 期末	2021/3 1Q末	前期末差
負債の部			
買掛金	125	91	▲34
短期有利子負債	113	140	+26
賞与引当金	104	60	▲43
流動負債合計	831	737	▲94
その他固定負債	11	11	+0
固定負債合計	11	11	+0
負債合計	843	748	▲94
純資産の部			
株主資本合計	1,244	1,278	+33
純資産合計	1,246	1,279	+33
負債純資産合計	2,089	2,028	▲61

※1：現預金／平均月間売上高

第1四半期は年々増収増益傾向に！

売上高 (単位：百万円)

営業利益 (単位：百万円)



Appendix

会社概要



「品質向上のトータルサポート企業」を経営方針に掲げ、事業を展開

会 社 名	バルテス株式会社
会 社 設 立	2004年4月
上 場	2019年5月（東証マザーズ 証券コード：4442）
本 社 住 所	大阪市西区阿波座1-3-15（大阪本社）
事 業 内 容	ソフトウェアテストサービス 品質コンサルティングサービス ソフトウェア品質教育サービス セキュリティ・脆弱性診断サービス
子 会 社	バルテス・モバイルテクノロジー株式会社 VALTES Advanced Technology, Inc. (Philippines)
従 業 員 数	543名（2020年6月末 グループ3社計）
内、総エンジニア数	476名（2020年6月末 グループ3社計）
総 資 産	2,028百万円（2020年6月末 グループ3社計）

社名の由来

Value created through Testing



「テストを通じて価値を創造する会社」という意味が込められています。

グループスローガン

VALTES

FOR QUALITY CONFIDENCE

VALTES for Quality Confidence に込めた想い

「お客様の品質に対する自信を揺るぎないものにしたい」
技術を磨き続け、品質向上に貢献し、より良い製品で社会を豊かにする。
バルテスグループは、ソフトウェア品質のさらなる高みを目指し続けます。

ソフトウェア開発の全工程で、ソフトウェア品質の向上支援サービスを提供

